







平成29年度 京都市図書館 読書週間記念事業 『司書のかくし玉』（児童書）

紹介者 図書館名	表紙	書名	著者名	出版社	推薦文
1 吉祥院		『かぼちゃ人類学入門』	川原田 徹／さく	福音館書店	福岡県門司港から連絡船「かぼちゃ丸」で夢時間。島には誇り高き「かぼちゃ人」たちがユル～い生活をヌル～く営んでいます。「食べることは「生きること」。「かぼちゃ人」たちは文字通り島を食べて生活し、島は彼らの人生そのものです。慎ましやかな「かぼちゃ人」たちの暮らしはどこか懐かしくほっこりします。絵柄が妙にリアルで登場人物たちはパンチ強め。そんな絵柄とのギャップも楽しめるお薦めの一冊です。
2 深草		『寿命図鑑』	やまぐち かおり／ 絵、 いろは出版／編著	いろは出版	カタチあるモノ全てには、終わりがあります。人や動物だけでなく、機械や空の雲や星々にだって寿命があります。「鶴は千年、亀は万年」と言いますが、実際にどれくらい生きるのか、知っていますか？様々な「終りまでの時間」が可愛いイラストと驚きの豆知識で紹介されています。意外とはなかったり、案外たくましかったり。知ってしまうと、ちょっと切ない。だけどそのぶん愛しくなる。ユニークで楽しい図鑑です。
3 岩倉		『わたしのタンポポ研究』	保谷 彰彦／著	さ・え・ら書房	受粉せずに1個体で種子を作り、綿毛で種を遠くまで飛ばすタンポポ。そんな「生きるためのしくみ」を明らかにするために奮闘する研究記録です。絵や写真が多く、研究方法や実験の経緯、苦労まで書かれています。あまり知られていない研究者の仕事や、自然の仕組み、私たちの生活にまで目を向けることの出来る、大人から子どもまで楽しめる1冊です。
4 左京		『きんいろきつねのきんたちちゃん』	加古 里子／著	学習研究社	きんたはひとりぼっちのきつねの子。森のなかまといっしょに平和に暮らしていました。ところがある日、森はゴルフ場になり、きんたは捕まり、人間に飼われることに。都会での華やかな生活の中、きんたはおかあさんと衝撃の再会を…！ 新美南吉が『手袋を買いに』の中で投げかけた命題を思い出す、科学絵本で有名な加古里子さんの隠れた名作童話です。



紹介者 図書館名	表紙	書名	著者名	出版社	推薦文
5 東山		『冥界伝説・たかむらの井戸』	たつみや 章／作, 広瀬 弦／絵	あかね書房	東山図書館のすぐ側に、小野篁が祀られている“六道珍皇寺”があり、今そこには小野篁が現生と冥界を行き来したといわれる井戸があります。この物語の主人公、高村悟は夏休みに京都東山にある父親の実家で、小野篁と井戸の不思議な話を聞かされ自慢の耳をピクンッとさせました。(楽しいことを察知すると悟の耳は反応するそうです。) 冒険心に火がついた悟は一人で井戸の探検にでかけます。本当に小野篁に会えて冥界を探検できたのでしょうか？
6 中央		『けしつぶクッキー』	マージェリー・クラーク／作, モウド・ピーターシャム／絵, ミスカ・ピーターシャム／絵, 渡辺 茂男／訳	童話館出版	1981年に出版後、長らく絶版だったものが2013年に復刊。力強い版画調の装丁と挿絵がとにかく素敵です。8つの童話は明るく、のびやかで、繰り返される愉快的な言葉、リズム感がある耳に心地よい文章はまるで、語り部のおはなしを聞いているかのよう。 絶版のペンギン社刊本も市内の図書館で所蔵しております。少々年季がいていますが興味がある方はこちらどうぞ。
7 醍醐中央		『ものぐさトミー』	ペーン・デュボア／文・絵, 松岡 享子／訳	岩波書店	朝起きるのがものすごくおっくうで、朝のしたくを、誰かが何もかもしてくれたいのに…、と思ったことはありませんか？ものすごく面倒くさがり屋の主人公、トミー・ナマケンボは、自分では何もしなくてもいい電気じかけの家に住んでいます。ところが、ある大雨の夜、電線が切れて電気がすべて止まってしまっ…。奇想天外な装置となりゆきに、大笑いすること間違いなし！
8 向島		『ペンダーウィックの四姉妹 [1] 夏の魔法』	ジーン・バースオール／作, 代田 亜香子／訳	小峰書店	「ペンダーウィックの四姉妹」シリーズの1巻であるこの作品は、姉妹と少年の出会いから始まります。一緒に過ごした夏休みは、決して忘れることのできない特別な時間となるのです。新しいのになぜか懐かしさを感じるこの物語は、この後2巻、3巻へとつながっていきます。巻を追うごとにどんどん魅力的に成長していく四姉妹＋少年から目が離せません。少年・少女はもちろん、かつて少年・少女だった方にもおすすめです。
9 右京中央		『木を植えた男』	ジャン・ジノノ／著, 寺岡 襄／訳, 黒井 健／絵	あすなろ書房	物語の舞台は、南フランスのプロヴァンス地方。誰も足を踏み入れない荒野に、老人は住んでいました。彼はただ一人、この不毛の地で、どんぐりを植えていました。有名な絵本ではありますが、こちらは新たなイラストに解説のあとがきを加えた単行本です。素朴で明瞭な言葉で綴られた、童話のような物語が、幅広い読み手の心に響きます。絵本を一度読まれた方にもおススメできる一冊です。


紹介者 図書館名	表紙	書名	著者名	出版社	推薦文
10 久我のもり		『あしたまほうになあれ』	小野寺 悦子／作, 黒井 健／絵	学研教育出版	「あしたまほうになあれ」。こやぎくんが、拾った種から芽吹いた木に歌いかける言葉です。その木の葉っぱは、まずくて食べられませんし、花の匂いを嗅ぐとくしゃみがでます。それでも、こやぎくんはくじけません。「はながだめでも みがあるさあしたまほうになあれ」と。やがて木は枯れ、こやぎくんにすてきな魔法を届けます。くじけずに希望を持ち続けるこやぎくんに元気づけられます。「あしたまほうになあれ」と...
11 下京		『いるの、いないの』	京極 夏彦／作, 町田 尚子／絵, 東 雅夫／編	岩崎書店	薄暗い廊下に、天井の裏に、鏡越しの自分の背後に。『ナニかがいる』と考えたことはありませんか？田舎のおばあさんの家に越してきた男の子は、うんと高い天井の梁の上に「誰か」がいることに気づきます。怖がる男の子におばあさんは「見なければいけないのと同じだよ」と答えます。けれど、見てはいけないと思うほど、視線は上に。そして……。独特の絵の広がり、さらに恐怖を引き立てます。大人でも背筋がぞっとする絵本です。
12 醍醐		『きつねのおきゃくさま』	あまん きみこ／ぶん, 二俣 英五郎／え	サンリード	ちいさな動物にとって、きつねは怖い存在。きつねは、心の中では、ひよことあひるとうさぎを食べるために世話をしているのですが、ひよこの「やさしい おにいちゃん」の一言で少しずつ心に変化が現われていきます。怖いきつねから、おおかみから皆を守る勇気ある優しいきつねに。そして、最後は「はずかしそうにわらって・・・」このシーンの絵のきつねの表情と言葉に、感動して涙がこぼれます。とても切ないお話です。
13 山科		『三びきのこぶた』 イギリスの昔話	瀬田 貞二／訳	福音館書店	昔話絵本は、様々な再話者、画家、装丁で、様々な出版社から出版されていますが、その中には、省略されていたり、ストーリーが変わってしまっているものもあります。でも、子どもには、伝承に忠実なお話、そのお話に合った絵で描かれている絵本を読んであげたいですね。例えば『三びきのこぶた』ならこの絵本！幼い子どもが初めて出会う昔話には、ぜひ本物を！！
14 伏見中央		『シャエの王女』	榎 佐知子／文, 赤羽 未吉／絵	偕成社	遠い昔、天竺のシャエの国に、戦の強い大王と美しい后がいました。二人の間に生まれたのは、膚が毒蛇のようなうろこにおおわれ、二目とみられない顔をした王女だったのです。王女は人目にふれないように、森の中の小さな庵で育てられます。自分が恐ろしい姿であることを知らず、賢い女官と優しい乳母に育てられた王女はすくすく成長するのですが、ある日自分の本当の姿を知ってしまいます。王女の人生はどうなるのでしょうか。

紹介者 図書館名	表紙	書名	著者名	出版社	推薦文
15 洛西		『シルクハットぞくはよなかのいちじにやってくる』	おくはら ゆめ／作	童心社	シルクハットぞくは、夜中の1じにやってくる。音もなく夜空を駆け、一軒の家を見つけるとお互いになつきあってその家にすわりと入っていく…。一体シルクハットぞくは何者?! 何をやるの…?! と、思っていると彼らはちょっとだけあることをします。くすりと笑えて何だかほっこりする絵本です。
16 南		『たいふうがくる』	みやこし あきこ／作・絵	BL出版	この絵本が出版されたのは、今から8年前! たった8年前!! こんなに牧歌的な台風が主流だったのだ! むしろ台風が来て学校が休みになるのを楽しみにしていた。 はてさて、今、同じタイトルで絵本を描けばどんなものができあがるのだろう。河川の氾濫、土砂崩れ、そら恐ろしい。 だが、家族は今までどおりで、この絵本に登場するようなやさしい会話の飛び交う家庭であってほしい。台風一過、それまでの白黒の世界がいつべんに真っ青に! すみずみまで晴れ渡った日を迎えることができますように。
17 北		『ちょっとだけ』	瀧村 有子／さく、 鈴木 永子／え	福音館書店	読み終わったら、ぎゅっと抱きしめたい絵本です。赤ちゃんができて、なっちゃんが、おねえちゃんへと少しずつ、少しずつ、成長していく過程が絵と文に絶妙に良いハーモニーで描かれています。なっちゃんの頑張る姿を通して、大人も子どもの頃を思い出したり、子どもを見守るお母さんの大きな愛を感じることができ、きっと心温まることができるでしょう。是非、読んでいただきたいお薦めの一冊です。
18 久世ふれあいセンター		『ピロードのうさぎ』	マージェリィ・W・ビアンコ／原作、 酒井 駒子／絵・抄訳	ブロンズ新社	幼い頃、そばにいたぬいぐるみ。胸に抱いてどこへでも連れて行ったこと、ふたりだけの内緒話をしたこと、そしてボロボロになっても、かけがえのない友達だったこと。この絵本は、誰にでもあるそんな思い出を鮮やかに甦らせてくれます。あとがきに「世界中で翻訳されて今なお読み継がれているお話です」と記されていました。何度も読み返したい絵本です。
19 移動		『ぼくのいいところ』	たかすぎ なおこ／さく・え	らくだ出版	ぼくはしろくま。ぼくはどうして毛ぶかいの? くまだから? みんなとちがうところが気になって、ねむれなくなりましたしろくまくん。泣いているしろくまくんに、お母さんは「いいところを10こかいておかあさんに見せて」と言いました。すると…。'ちがう' って、すてきでたいせつなこと。ぐんぐん元気がわいてくる絵本。

紹介者 図書館名	表紙	書名	著者名	出版社	推薦文
20 西京		『ぼくはくまのままにいたかったのに』	イエルク・シュタイナー／ぶん， イエルク・ミュラー／え， おおしま かおり／やく	ほるぷ出版	<p>私は何だろうか。自分ではヒトだと思っているけれど、実は違うのかもしれない。まわりの人がそう言うから、ヒトだと思っているだけなのかもしれない。</p> <p>ある日、突然あなたはクマだと言われたらどうしますか？言われた通りクマになりますか？それとも「私はヒトだ」と言い張りますか？心の中では「自分はヒト」と思いつつ、周りの言葉に流されて生きていきますか？</p>
21 こどもみらい館 子育て図書館		『やぎのはかせのたいはつめい』	榎 ひろし／さく・え	福音館書店	<p>5年ぶりの博士の大発明。それは大木を飲み込む大きな機械でした。木を入れた機械からは、葉っぱ、丸太、板などが次々に排出され、生活に役立つものに姿を変えます。</p> <p>素敵な発明に村のみんなは大喜び。だけど博士は何が出てきても満足しません。実は博士には、木を使って本当に作りたかったものがあつたのです。最後に機械から出てきたものとは…？</p> <p>木の有用性が学べる、ためになってとっても面白いお話です。</p>



平成29年度 京都市図書館 読書週間記念事業 『司書のかくし玉』（一般書）

紹介者 図書館名	表紙	書名	著者名	出版社	推薦文
1 左京		『死にカタログ』	寄藤 文平／著	大和書房	死ぬってなに？死んだらどうなるの？だれでも一度は考えたことがありますよね。ある民族は死んだら「コオロギになる」、また別の地域では「近所の島へ行く」と伝えられているそうです。 本書はイラストレーター寄藤文平氏が、かわいらしくユーモラスに描きあげた死のカタログです。死にまつわるあれこれを、5つの視点で集めています。重くなりがちな死の疑問に、まっすぐ純粋に向き合った、難しくない「死の本」です。
2 移動		『知られざる大英博物館古代エジプト』	NHK「知られざる大英博物館」プロジェクト／編著	NHK出版	何千年もの間、眠っていた古代エジプトのミイラ。その謎に包まれた存在が、科学調査によって解き明かされた。医療用CTスキャン、骨からのコラーゲン抽出。古代エジプトの庶民はどんな暮らしをして、何を思い、何を食べていたのか。読み進めていくと意外な繁栄の秘密も見えてくる！大英博物館の収蔵庫も覗ける、興味深い一冊。
3 右京中央		『僕は、字が読めない。』	小菅 宏／著	集英社インターナショナル	自分がディスレクシアであると偶然知るまでの日々。読み書きができない自己嫌悪、家族との軋轢、2度の自殺未遂と自傷行為の繰り返し。そしてそれを乗り越えた母と息子の「509日」の壮絶な戦いの記録を祈るような気持ちで読んだ。 家族の愛と言霊が彼を支え「今度は自分が」という実名による発表と出版が実現。人を救うため講演・啓発活動に励む彼は輝いていた。
4 久我のもり		『パンダ外交』	家永 真幸／著	メディアファクトリー	本書は、愛くるしい姿が人々を魅了するパンダが、ときに戦争プロパガンダの手段として、ときに友好のシンボルとして中国外交の一翼を担ってきた歴史を考察する。その歴史を紐解くことによって明らかになるのは、変転する国際情勢に対応するために、パンダ外交に戦略的重要性を見出し、有効に活用する中国の巧みな外交政策である。パンダを求める欲望が消えない限り、パンダは中国にとって不可欠な外交資源でありつづけるのだ。

紹介者 図書館名	表紙	書名	著者名	出版社	推薦文
5 醍醐中央		『ファッションフード、あります。はやりの食べ物クロニクル1970-2010』	畑中 三応子／著	紀伊國屋書店	近年いろんな食べ物の流行があります。ドーナツやパンケーキ店の行列の話も記憶に新しいでしょう。このような食の流行の歴史は古く、江戸時代の寿司から、70年代のカップラーメン、90年代のティラミスと様々なブームがありました。この本では、食の流行を「ファッションフード」と名づけ、年代順に詳細に描写しています。食文化史として読むのはもちろん、昔の流行を懐かしく振り返ることのできる、楽しい1冊です。
6 深草		『台所に敗戦はなかった』	魚柄 仁之助／著	青弓社	かつてあった、モノが手に入りやすかった時代。それでも何とか美味しく食べようという人々の努力を、作者の軽妙な文章が彩ります。 ホットケーキにコロケにと変幻自在のうどん。正月は黒豆の煮汁で祝酒。バナナはナイフとフォークで上品に。現代の豊かな食文化の下地になったのは、この時代の台所にあった飽くなき探究心とチャレンジ精神だった…のかもかもしれません。
7 下京		『大英自然史博物館の《至宝(トレジャーズ)》250』	大英自然史博物館／編、 国立科学博物館／日本語版監修、 武井 摩利／訳	創元社	大英自然史博物館に集められた800万点の収蔵品の中から、研究者・学芸員が選んだ250点の《至宝》を紹介しています。美しい宝石や、絶滅してしまった生き物の剥製、古生物の化石など。全ページカラーの写真とともに、その標本の科学的な価値だけではなく、収蔵された経緯や、収集者についての説明もあり、読みごたえのある一冊です。ページを開いて、大英自然史博物館を訪れた気分になってみませんか？
8 醍醐		『夜空と月の物語』		パイインターナショナル	月の情景写真が、とにかく綺麗な本。月は、スーパームーンや月虹など不思議な現象が起こり、今も昔も私達を魅了しています。その証拠に、月に関する言い伝えが世界中に存在します。本書は、このような世界の神話や民話も一部掲載。どこの国でも同じ月を見ているはずなのに、国によって言い伝えが違うのが興味深いです。他にも、月が使われている国旗や絵画などが紹介されており、この本を読むと月に関する面白い知識が増えます。
9 吉祥院		『虫の呼び名事典』	森上 信夫／写真・文	世界文化社	えっ！アメンボを漢字で書くと“飴ん坊”？体から飴のようなおいを出しているからそう書くんた。へえ～知らなかった・・・なんていう、虫の名前の由来や生態についてわかりやすく解説した一冊。しかも虫の姿をズームアップした色鮮やかな写真が素晴らしい。散歩道で出会う虫たちの美しさや、命の輝きを知ることのできるこの本は、虫に興味がある人も、そうでない人も、子供から大人まで楽しめます！

紹介者 図書館名	表紙	書名	著者名	出版社	推薦文
10 向島		『ナウシカの飛行具, 作ってみた 発想・制作・離陸- メーヴェが飛ぶまでの10年 間』	八谷 和彦／著, 猪谷 千香／著, あさり よしとお／マ ンガ	幻冬舎	宮崎駿氏の作品『風の谷のナウシカ』に描かれる、あの白い翼「メーヴェ」が、現実の空を飛ぶ姿をインターネットなどでご覧になった人もいないのではないでしょうか？この本には、その「メーヴェ」から想を得た著者が、実際に飛ぶことができる機体を作り、航空局への申請もして本当に空を飛ぶまでの様々が記されています。
11 南		『明日町こんぺいとう商店街〔1〕招きうさぎと七軒の物語』	大島 真寿美 大山 淳子 彩瀬 まる 千早 茜 松村 栄子 吉川 トリコ 中島 京子／著	ポプラ社	こんぺいとうの角は、24個だって知っていましたか？戦後の焼け跡に、24軒のお店が集まって歩き出した「招きうさぎ」がマスコットの少し不思議で、どこかなつかしい「明日町こんぺいとう商店街」。架空の商店街を舞台に、7人の人気作家がそれぞれ「カフェ」や「砂糖屋」など1軒の店のなつかしくてあたたかな物語を紡いでいきます。2巻、3巻もぜひどうぞ。
12 西京		『ささらさや』	加納 朋子／著	幻冬舎	交通事故で夫をなくしたサヤは赤ン坊のユウ坊をつれて、佐々良の街に引っ越してきた。人をう疑う事を知らないサヤ。不思議な事件が次々起こり、心配した亡夫は周りの人々の体を借りて、サヤを助ける。そこへ跡取りのいない亡夫の家族が、ユウ坊を引き取りたいと、圧力をかけてくる。周りの人々にも助けられ、強くなっていくサヤ。だがそれは同時に、幽霊の夫との永遠の別れを意味した。哀しくて切ない、でもじんわり温かくなるお話です。
13 山科		『七人の敵がいる』	加納 朋子／著	集英社	私たちの今の社会生活、働く女性の子育てと家庭。ああ…知らなかった…そうだったのか…！そんなこと誰も言わないし、ましてや聞けない、暗黙の了解。知っていたら、もう少しまともな言動ができたのに。学校家庭町内職場etc。色々な環境で自分をコントロールできたのに。過ぎてしまったこと、これからのこと、人生は反省と勉強だなあ。心にぐさり…。日々忙しくてもへとへとでも読めます！必読！
14 久世ふれあいセンター		『思い出探偵』	鏑木 蓮／著	PHP研究所	探偵は探偵でも、事件を追うのではなく思い出を訪ね歩くのが仕事。依頼人のため少ない手がかりを頼りに奔走する探偵。その、繊細な心模様を汲みながら思い出を巡る探偵達の人柄は、人と人とを繋ぎ、引き寄せられるように真相へと導きます。心温まるストーリーあり、緊迫したサスペンスありと予期せぬ展開にどんどん引き込まれます。『互いが共鳴し合うのには、一刹那で十分な出会いが人生にはあるのだ。』静かに心に沁みる物語です。

紹介者 図書館名	表紙	書名	著者名	出版社	推薦文
15 北		『銀二貫』	高田 郁／著	幻冬舎	時代もの・義理人情という本にはほとんど興味なかった自分が、これほど江戸時代の大阪・天満で生きる人たちに心情をかさねながら読むことができるとは思いませんでした。「早く寒天ができますように」「早く真帆ちゃんに会えますように」そして「早く銀二貫がたまりますように」にわか『信心』ながら、自分も登場人物たちと一緒に天神さんへお祈りしながら読んだことを覚えています。
16 洛西		『漁港の肉子ちゃん』	西 加奈子／著	幻冬舎	この本を手取るのをはじめは一瞬ためらった。表紙には裸の女の人がまどろむ画。魚なの肉なの？と少々とまどうタイトル。肉子ちゃんは主人公の名前だ。太っているから肉子ちゃんとか呼ぶ。話すといつも語尾に「！」がつくし、声は大きいし、ださいし、駄洒落や語呂合わせばかり言うし、いびきはうるさいし…。けれども読んでいるうちに肉子ちゃんが愛おしくてたまらなくなるのは何故だろう。こんなに愛に溢れた小説を私は知らない。
17 中央		『さよなら神様』	麻耶 雄嵩／著	文藝春秋	「犯人は〇〇だよ」。読み始め一行目から、犯人の名前だけが告げられる。神様を自称する、小学五年生の鈴木太郎からである。身の回りで起こる殺人事件の真相を探る久遠小探偵団は、神様の託宣に翻弄される。鈴木は本当に神様なのか、本当に正しいのか？ それはもはや信心の問題だ。否応なしに、鈴木への回答に向けて積み立てられるロジックの超展開と、後味の悪さが素敵な短編集。
18 東山		『有頂天家族』	森見 登美彦／著	幻冬舎	京都の文化財として知られている下鴨神社の糺ノ森は、賀茂川と高野川の合流地点に発達した原生林であり又パワースポットでも有名です。この森を住みかとしている狸の名門下鴨家一族と如意ヶ嶽薬師坊であった大天狗(通称 赤玉先生→赤玉ポートワインをいつも愛飲しているから)が人に化け人間社会に紛れ京都市内の名所を自由に駆け巡り楽しく暮らしていました。そんな矢先下鴨家頭領の父、総一郎が金曜倶楽部なる集まりの人間たちによって狸鍋にされ帰らぬ狸となってしまいます。ここから遺された母狸・兄弟狸たちの”捲土重来”の戦いが始まります。現代の狸版「吾輩は猫である」といってもよいのでは？と思わせる楽しい小説です。(マンガも全4巻で出版されています。)
19 こだもみらい館 子育て図書館		『今日』	伊藤 比呂美／訳, 下田 昌克／画	福音館書店	ニュージーランドから作者不詳のまま伝わった、お母さん達を励まし応援してくれる詩です。子育ては楽しいことばかりではなく、大変なことも多い。今日一日何をやっていただろうと自分を責めてしまう時もある。そんな一生懸命頑張っているお母さん達に、大丈夫だよ！ちゃんとできてよ！と伝えたい。赤ちゃん絵本の行事でこの詩を紹介したら、多くの方が涙を流されていました。一人でも多くの方がこの詩に出会い、癒され、笑顔になれますように。

紹介者 図書館名	表紙	書名	著者名	出版社	推薦文
20 岩倉		『華氏451度 [新訳版]』	レイ・ブラッドベリ／ 著 伊藤 典夫／訳	早川書房	主人公の仕事は ファイアマン。消防士(火を消す人)のことで すが、この近未来小説の中では、火を点ける人になっていま す。華氏451度＝摂氏220度。これは紙が引火して燃焼する温 度。「451」のマークを付けた彼らの任務は、マニュアル本やコ ミック以外の本を焼き払うこと。人々はイヤホン型受信機で、始 終心地よい音楽と物語に浸って暮しています。ある日、自分の 仕事に疑問を持つようになった主人公は・・・。
21 伏見中央		『赤い館の秘密 乱歩が選 ぶ黄金時代ミステリーBEST 10』	A・A・ミルン	集英社	横溝正史が「本陣殺人事件」のなかに金田一耕助のことを【こ の青年は飄々乎たるその風貌から、どこかアントニー・ギリンガ ム君に似てはしまいかと思う】と書いています。素人探偵アン トニー・ギリンガムは友人を訪ねたイギリスの田舎で殺人に居 合わせ事件を推理していきます。A・A・ミルンといえばあの有名 な『クマのプーさん』の作者ですが、ミルンが父親に捧げるため 生涯一冊だけ書いたミステリーで、金田一耕助が似ている探偵 とくれば読まずにはいられませんね。